

【梗概】

東京の雑誌社で働くメイコ（30）は結婚を間近に控えている中、一旦実家に帰るタイミングで同窓会に行くことになり、9年前に別れた元カレと会うことが気になっている。地元の役場で働くイチ（30）は同窓会に元カノが来ることを知り複雑な感情を抱く。同窓会当日、顔を合わせた2人はお互い素直になれずに大した話もすることもなく終わってしまふ。

次の日、実家で荷物の整理をしていたメイコは本棚に埋もれていたイチとの写真アルバムを見つけろ。その日の夜、仕事終わりのイチに会いに行く。昔よく歩いた町を懐かしみながら歩く2人。歩く中ずっと言えなかったことを言おうとするイチだが、上手く伝えられずメイコを怒らせてしまふ。

次の日の朝、メイコは東京へ帰るため駅へ向かう。電車に乗り込むとホームにイチが走

り込んでくる。タイチはメイコに手紙を渡し、
メイコはタイチに写真アルバムを渡し、電車
は走り出す。車内でタイチからの手紙を読み
涙を流すメイコ。タイチからの手紙にはメイ
コの結婚を心から喜んでいるということが書
かれていた。

【登場人物】

- ・メイコ（30）：タイチの元カノ。
- ・タイチ（30）：メイコの元カレ。
- ・カンタ（30）：タイチの友人で同級生。
- ・アサコ（23）：タイチの同僚の後輩。
- ・マキ（30）：メイコの会社の同僚。
- ・ヨウヘイ（32）：メイコの結婚相手。

○ オフィス街

高層ビルが立ち並ぶ街。
車がビュンビュン走っている。
忙しなく行き交う人、人、人。

○ 出版社・オフィス

日当たりが良く洒落た雰囲気
のオフィス。
『月刊誌 *MEMO*』と書かれた部署で
パソコンと向き合い仕事をして
いる茅野メイコ（30）。
廊下から同僚のマキ（30）がやっ
てくる。

マキ 「メイコさん」

メイコ 「（パソコンから視線を離さず）はい、マキさん。なんですか？」

マキ 「今日さ、定時にあがれそう？」

メイコ「うん、大丈夫そうだけど」

マキ「よし、じゃあさ、ユウコとサツちゃん
とで結婚祝いさせてよ」

メイコ「いいね。ということみんなの奢り
だ」

マキ「はいはい、いい店予約しておきますよ。

でき、旦那さん呼べたりする？」

メイコ「（手を止めて）え？なんで？」

マキ「だってメイコ結局結婚するまで旦那さ

んに会わせてくれなかったじゃん。ね、

会わせてよ。お願い！」

メイコ「んー：しょうがないなあ、じゃあー

応声かけてみるよ」

マキ「やった！じゃあヨロシク」

自分の席に戻るマキ。

フツと息を吐き仕事に戻るメイコ。

それなりの田舎町。それなりに廃れていて、それなりに栄えていて。

○田舎町・商店街

人通りもまばらな商店街。

『吉田電気店』から何やら揉めながら出てくる吉田（62）とタイチ（30）

吉田「な―頼むわホンマに。な？これで最後やから」

タイチ「何回言わすんですか。アカンって言てるでしょ。もう商店街に出せる予算は底ついてます」

吉田「そもそも少ないんや！」

タイチ「吉田さんがお祭りでどっかの知らん

演歌歌手なんかブッキングせんかったら、まだまだ予算余ってましたよ。身から出たサビや思て諦めや。ほんなら」

手袋をはめて、沿道に留めていた自転車に乗り漕ぎ出すタイチ。

吉田「殺生やで！お役所仕事しよって！ア

ホ！」

タイチ「（自転車で走りながら）やかましわ！」

○メインタイトル

○幾つかのカットの羅列

商店街や駅前などの田舎町の風景を自転車で走り抜けていくタイチ。

○田舎町・役所前

自転車に乗ったタイチが到着する。
駐輪場に自転車を止め、フツと息を吐き

役所に向かう。

○役所・地域振興課

3人ほどが在中している。

課長（58）は鏡を見ながら鼻毛抜き。

ヤスコ（40）はパソコンでソリティア。

アサコ（23）は雑誌を読みながらチョコ

コを食べている。

外回りをすましたタイチがマフラーを

外しながら戻ってくる。

タイチ「ただいま戻りました。あー寒」

課長「吉田さん、納得しはった？」

タイチ「（首を振る）納得どころか、あとジュ

ウ出せって言うてきましたわ」

ヤスコ「追加で十万って、自分が住んでると

こが東京かなんかだと思ってんのか

ね」

アサコ「何に使うつもりなんでしょ」

タイチ「大方また好きな演歌歌手でも呼ぶつもりなんやろ。課長、吉田さんから何言われても今度は折れたらあきませんからね」

課長「肝に命じときます。(鼻毛が抜けて)痛っ」

電話が鳴る。

アサコが出ようとすることを止めてタイチが出る。

タイチ「ハイ、こちら地域振興課」

カンタ(声)「おうタイチ」

タイチ「カンタか。なんや？役所に電話してくるなよ」

カンタ(声)「お前がケイタイ出えへんからやろ」

スマホを覗くと着信通知がある

タイチ「あーすまん。気づかんかった」

カンタ(声)「明日、どないするよ？」

タイチ「明日？」

カンタ(声)「忘れてんか？高校の同窓会。町

残ってる連中でやる言うてたや
ろ」

タイチ「あー。あれ明日か」

カンタ（声）「店に人数伝えとかんとあかんか
ら。どないする？」

タイチ「んー：じゃあ参加しよかな」

カンタ（声）「オッケー。じゃあ明日19時か
らで予約しとくからそのつもり
で」

タイチ「はいはい」

電話を切るタイチ。

アサコ「電話、なんでした？」

タイチ「明日同窓会があるんやと」

アサコ「えーイイなー」

タイチ「ええか？」

アサコ「好きだった男子とかに会えるじゃな
いですか。先輩も好きだった女子に
会えるかもですよ」

間

タイチ「：ま、同窓会いうても町に残ってる

連中だけやからな。懐かしい顔なんてあらへん」

アサコ「ふくん」

タイチ「ほれ、無駄話しとらんと。13時から山本さんところ行かなあかんやろ」

○東京・レストラン

4人「カンパーイ」

4つのビールジョッキがぶつかる。

メイコと同僚のマキ、ユウコ（30）、サチエ（29）と結婚相手のヨウヘイ（32）がテーブルを囲んでいる。

マキ「いやー話には聞いてたけど、本当にいい旦那さん見つけたよね」

サチエ「ホントホント、羨ましい！」

ヨウヘイ「いやいや、いいパートナーを見つけたのでいうと僕の方が幸せもんです」

ユウコ「くー！腹立つ！腹立つぞこの野郎！！」

メイコの頭をこつくユウコ。

メイコ「すいません。お先に幸せになります」

照れ臭そうに笑うメイコとヨウヘイ。

マキ「実はね、メイコってヨウヘイさんと付き合うまで本当に浮いた話なくってさ。心配してたんだよね」

サチエ「そうですよ。合コンとか誘っても絶対に来なかったし」

ヨウヘイ「そうなんだ」

メイコ「仕事で必死だったからね」

ユウコ「メイコは入社した時からとにかく仕事仕事だったから、まさか先越されるなんて思いもしなかったんですよ」

ヨウヘイ「じゃあ、そのお堅い牙城を崩したのが僕だったってわけか。光栄だな」

サチエ「ヨッ！恋の名軍曹！」

ヨウヘイ「恐悦至極」

笑いに包まれるテーブル。和氣藹々とした雰囲気。

マキ「そういえば明日だけ？地元帰るの」

ヨウヘイ「え？そうなの？」

メイコ「うん。荷物整理しとこうと思って。

あとタイミングよく同窓会がある
みたいだから」

ヨウヘイ「そうなんだ。楽しんでおいで」

ユウコ「ヨウヘイさん、そんな悠長なこと
言っていいんですか？同窓会って
ことは好きだった男子と会っちゃ
うかもしれないですよ」

サチエ「久々に会った彼と妙に気が合っちゃ
って：みたいなきとがあるかもで
すよ」

メイコ「変なこと言わないで」

ヨウヘイ「そいつは困るなあ。僕より先に浮
気はダメだよ」

メイコ「もう、やめてよ」

メイコの脳裏にタイチの顔がよぎる。
マキ「メイコは地元で元カレとかいるの？」
メイコ「え？：まあ、うん、いるね」
ユウコ「え？同窓会来るの？」
メイコ「知らないよそんなこと」
サチエ「ちょっと、今から電話して聞いてみ
ませんか？」

マキ・ユウコ「いいねいいね！」
メイコ「ちょっと！ヤだからね」

ヨウヘイ「いいんじゃない？僕もちょっと興
味あるなあ」

メイコ「ちょっと、ヨウヘイさんまで」

マキ「旦那さんの命令だぞ、メイコ」

メイコ「：わかったわよ。かけりゃいいんで
しょかけりゃ」

マキ・ユウコ・サチエ「いえーい！」

スマホを取り出しタイチの連絡先のペ
ージへ。

久しぶりに見るこのページ。

間

電話をかける。

メイコを見つめる4人。

3 コール目で電話を切るメイコ

メイコ「出ない」

マキ・ユウコ・サチエ「早いな！」

ヨウヘイ「ははは」

メイコ「もうお終い！ 飲み直すよ、ほら」

スマホを鞆にしまうメイコ。

○タイチの家・夜

タイチ「ただいま」

リビングに顔を出すタイチ。母が寝転がっている。

タイチ母「おかえり。ご飯は？」

タイチ「食うてきたわ」

タイチ母「そーいや電話あったで」

タイチ「誰から？」

タイチ母「カンちゃん。あんたが全然電話で

えへんからとかなんとかいうてた
で」

スマホを見るとカクタからと登録して
いない番号からの着信履歴。

タイチ「？」

○タイチの部屋

カクタに電話をかけているタイチ

タイチ「すまんすまん」

カクタ（声）「ケイタイ持ってる意味あれへん
がな」

タイチ「ほんで、何の用？」

カクタ（声）「ミツヤンからさっき連絡があっ
てな。参加者一人増やしたいて」

タイチ「あそう、それで？」

カクタ（声）「それがな、落ち着いて聞けよ」

タイチ「おう」

カクタ（声）「あのな：茅野メイコが来るんや

って」

無音。

タイチの表情が曇る。

カンタ（声）「なんか、ちょうどこのタイミ
ングで実家戻る用があったらし
くてな：」

カンタの話など耳に入ってこない。

カンタ（声）「タイチ？聞いてるか？」

タイチ「え？ああ、メイコな。そうなんや」

カンタ（声）「どないするよ」

タイチ「：何が？」

カンタ（声）「参加すんのやめとくか？」

間

タイチ「：別に。もうずいぶん前の事やし。

関係あらへんから」

カンタ（声）「：そうか。ほんならええけど。

まあそういうことやから」

タイチ「おう」

電話を切る。

間

ハッと何かを思い出す。
着信履歴を見ると知らない番号。

間

スマホを置き意味もなく部屋を歩き回
る。

スマホを見る。

手に取り知らない番号にかけてみる。

プルルルル

プルルルル

ガチャ

間

タイチ「：あの：すみません：電話もらって

たみたいで」

メイコ（声）「：うん」

タイチ「：メイコか？」

メイコ（声）「：うん」

タイチ「ああ、そうか。やっぱそうか。すま

んな、電話出れんで」

メイコ（声）「：ううん、大丈夫」

間

タイチ「あ：で、何か用やったんか」

マイコ（声）「：うん、あの、明日、同窓会に
ね、顔出そうと思ってるんだけ
どね」

タイチ「ああ、聞いた聞いた。明日19時か
らやって」

マイコ（声）「そう」

タイチ「あ、場所はな、商店街のこの、昔
文房具屋あったところに居酒屋がで
きててな、そこやわ」

マイコの声「そっか」

間

マイコ（声）「あの：」

タイチ「：なに？」

マイコ（声）「：あたし、行っても平気？」

タイチ「：なに言うてんねん。当たり前やろ」

マイコ（声）「：そうだね」

間

何かを言おうとするタイチ。

マイコの声「じゃあ：明日」

タイチ「：おう：明日」

ブツツ

プープープー

スマホを投げベッドに仰向けになるタ

イチ。

天井を見つめる。

新幹線の発車メロディが聞こえる。

○（回想）新神戸駅のホーム

新幹線の空いている扉の前に立つタイチ。

扉が閉まり新幹線は発車する。

ホームに立ち荒むタイチ。

ブラックアウト

○新幹線

東京から西へ向かう新幹線。
車窓から景色を眺めるメイコ。
ふと左手薬指の結婚指輪を見つめる。
間
結婚指輪を外す。

○田舎町・役所・地域振興課

目を擦りながら眠そうに資料を整理し
ているタイチ。

ブラックコーヒーを持ってくるアサコ。

タイチ「おう、サンキュ」

アサコ「寝不足ですか？」

タイチ「まあな」

アサコ「そんなに同窓会が楽しみなんです
か？（微笑）」

間

タイチ「あのさ」

アサコ「はい？」

タイチ「もしな：もしアサちゃんが同窓会に誘われたとしてな、事前に元カレに連絡とったりするか？」

アサコ「しませんよ、そんなん」

タイチ「：やっぱそうよな」

アサコ「まあでももし仮にするとしたら理由は二つ考えられますね」

タイチ「二つ？」

アサコ「はい。一つは絶対に会いたくないからあえて本人に来るかどうか聞いてみる」

タイチ「はあ：もう一つは？」

アサコ「：まだその人のことが好きなんです」

○ 田舎町・駅

ホームに降り立つメイコ。

大きくノビをする。

○ 駅前広場

小さめのキャリーバックを引きながら
歩くメイコ。

街並みを見回し懐かしさに目を細める。

メイコ「こんなに田舎だったっけか」

路肩に止まっているタクシーに乗り込
むメイコ。

○ 居酒屋・夜・外観

静まりかえって暗い商店街の中で灯り
が煌々と灯っている居酒屋。

○ 居酒屋

タイチを含めた男女9人が店を貸し切

って座敷の席にいる。

和気藹々とした雰囲気。

カンタ「せやけど、あれだけおった同級生がもう10人も町におらんとはなあ」

女A「そりやみんな都会に出てくわよ。私だ
って出れるなら出たいもん」

ビールを飲むタイチ。

男A「この町もずいぶん住みやすくなったけどな。コンビニが2軒もあるんやから」

スマホを軽く見るタイチ。

女B「聞いた話によると都会やとコンビニが
二軒横並びであったりするらしいで」
入り口の方を見るタイチ。

男B「なんやそれ。アホちゃう」

男C「今後もっとこの町は良くなっていくよ。
なんとって役所には我らがタイチく
んがおるんやから」

ハツとするタイチ。

タイチ「ええ？なんや、荷が重いな」

女C「タイチくん、役所で働いとるん？」

タイチ「うん、地域振興課」

女D「そうなんや。なんか意外やな」

女A「確かに。真っ先に町から出て行くタイ
プやと思ってた」

カンタ「俺は？俺はどんなタイプに見える？」

女B「アホ」

女C「カス」

カンタ「ほんまお前ら酷いな」

ガラガラガラ

店主「ラッシャイ」

入り口を見るタイチ。

メイコが入ってくる。

メイコ「ごめん、遅れた」

女A「メイコー」

女B「めっちゃ久しぶり！」

メイコ「卒業式以来だね」

男A「さ、メイコちゃん、どうぞどうぞ」

メイコ「ありがとう」

座敷に上がるため靴を脱ぎながらチラ
ッとタイチを見るメイコ。

目があった途端、視線を伏せるタイチ。

男 B 「茅野、東京で雑誌作ってるんやろ？」

メイコ 「うん、まあね」

女 C 「すごい！なんて雑誌？」

タイチの顔

メイコ 「月刊『メロメロ』って女性向けのライフス

タイトル誌」

男 C 「ライフスタイルシってなんだ？」

メイコ 「うーん、これから流行しそうなもの

を先取りして発信してる雑誌って

いうと分かりやすいかな」

女 D 「じゃあメイコが世の中の流行を作って

るってことじゃん！」

不機嫌そうにビールを飲むタイチ

メイコ 「そんな大袈裟なことでもないけど、

一応それを目指してます」

カンタ 「すっげえな。な、タイチ」

飲んでいたビールを咽せるタイチ

メイコの顔

タイチ 「そやな。すごいすごい」

メイコと目が合うタイチ

メイコが目を伏せる

タイチの顔

女 A 「あ、そういうえば、メイコとタイチくん
って付き合ってたよね」

メイコの顔

タイチの顔

男 A 「そーいやそーやっとな。卒業してから
も続いてたん？」

ビールを飲むタイチ

メイコ「少しだけね」

タイチ「もう8年も前に別れとる」

メイコ「違う。9年」

タイチに笑顔を向けるメイコ

タイチ「：もう忘れました」

苦笑いしてビールを飲みタイチ

カンタ「そーいえばメイコちゃんさ、駅の周
り見た？めっちゃくちゃ変わったん

やで」

メイコに駅前が変わった話をして盛り

上がる

タイチは伏し目がちに話を聞いている

メイコの笑顔

タイチの伏し目

メイコの笑顔。

タイチの伏し目。

○居酒屋・外の喫煙所

タイチとカンタがタバコを吸っている。

カンタ「タバコとか吸うんやな」

タイチ「吸わんよ」

カンタ「：やっぱまずかったか？」

タイチ「何が」

カンタ「分かつとるくせに」

店からタバコを持ったメイコが出てく

る

メイコ「どうも」

カンタ「どもー。茅野ってタバコ吸うんや」

メイコ「仕事柄ストレス溜まるからね」

カンタ「タバコを灰皿に捨てる

カンタ「じゃ、俺は戻りますわ」

タイチ「おい」

カンタ「茅野、こいつちよっと飲みすぎて気

分悪いみたいやから頼むわ」

店内に戻っていくカンタ

間

タバコを啜えるメイコにライターを近

づけるタイチ

メイコ「ありがと」

タイチ「どういたしまして」

タバコを吸うメイコ

間

メイコ「吸うんだね、タバコ」

タイチ「仕事柄ストレス溜まるからな」

メイコ「昔あれだけタバコ否定派だったのに

ね」

タイチ「そうやったか？」

メイコ「そうだったよ、『身体に煙入れるなん

て考えられへん！』って誰に言って

るのか分かんないけど怒ってたよ」

タイチ「そういうお前こそタバコなんか吸う

ような感じじゃなかったやろ」

メイコ「9年も経てば変わるんです」

間

メイコ「：ちょっと太ったんじゃない？」

タイチ「：9年も経てば変わるんです」

間

メイコ「あれから恋人とか出来た？」

タイチ「：人並みには」

メイコ「ふーん」

間

タイチ「そっちは」

間

メイコ「いないよ。タイちゃんと会わなくな

ってから、ずっと」

タイチ「：」

メイコ「なんて、言ったらどんな顔するか見

てみたかっただけ」

タイチ「性格悪いな」

メイコ「タイちゃんが捨てた女は意外とモテるんですよ」

気不味そうにタバコを吸うタイチ

タイチ「：元氣そうで：よかったわ」

メイコ「：」

タイチ「うん、よかった」

メイコ「：よくないよ」

タイチ「？」

メイコ「よくなかったよ、あの時は」

タバコを灰皿に捨て店内に戻るメイコ

タイチ「：あゝ（頭を抱える）」

○居酒屋・店内

店内に戻るタイチ。カンの隣の席に戻る。

カンタ「話せたか？」

黙って頷くタイチ

女 A 「エ？本当に？」

女 B 「おめでとう！」

女 C 「ちょっとみんな注目！」

視線が女子グループに集まる

メイコ 「私、茅野メイコ、この度、結婚する

ことになりました」

左手薬指にはめた指輪を見せるメイコ

タイチの顔

無音

みんなから祝福されているメイコ

真顔で嬉しそうなメイコを見つめるタイ

チ

男 A 「タイチ、元カレからもなんか言っ

れよ」

タイチを見るメイコ

メイコを見るタイチ

間

タイチ 「：うん：よかったな」

メイコ 「うん」

カンタ「茅野の結婚を祝してもういっぺん乾杯しようや。おっちゃん、人数分ビール！」

店主「はいよ」

盛り上がっている宴会

笑みをこぼしながらビールを配るタイチ

タイチを見るメイコ

○居酒屋・外

同窓会が終わり店を出る一同

女D「メイコ、どれくらいこっちおれんの？」

メイコ「明日のうちに実家の荷物まとめて、

明後日の朝帰る予定」

泥酔したタイチに肩を貸しているカンタ

カンタ「じゃあオレ、こいつ送ってくから先行くわ。茅野、お幸せに」

メイコ「ありがと。気をつけてね」

歩き出すカントとタイチ

その後ろ姿を見つめるメイコ

○翌日・役所

死んだような目でパソコンを見ている

タイチ

アサコがタイチにコーヒーを持ってくる

アサコ「タイチさんが遅刻なんて珍しいです

ね」

タイチ「すまん」

アサコ「（真顔でタイチの顔を覗きこむ）」

タイチ「：なんや」

アサコ「朝帰りですか？」

タイチ「ちゃうけど」

アサコ「（表情緩み）そうですか。てっきり同

窓会で久々に会った元カノとなん

かあったもんやと」

タイチ「なんかねえ：なんもなかったなあ（苦笑）

笑い」

アサコ「残念でしたね（微笑）」

自分のデスクへ戻るアサコ

タイチ「：なんもなかった」

○茅野家・メイコの部屋

複数のダンボールが積まれる部屋

髪を束ねて部屋を整理するメイコ

勉強机の上段の本類をゴツソリ抜き出

し床に置き仕分けする

メイコ「これはいらぬ、これもいらぬ、

これは、うーん、連れてこう」

花柄の冊子を手にしたところで止まる

メイコ

メイコ「これって確か：」

花柄の冊子を開くとタイチとの写真が

たくさん並んでいる

メイコ「（微笑）やっぱり。持っていくの忘れて
たんだよなあ」

冊子をめくりながら写真を見るメイコ
笑顔だった表情が徐々に哀しみを帯び
てくる

冊子の最後のページには笑顔で卒業証
書を持つタイチとメイコの写真

メイコの顔

間

冊子をそっと閉じ、仕分けする（カメラに
は映らない）

○役所・外観・夜

職員が帰り出す中にタイチとアサコ

アサコ「先輩、相談に乗ってあげましょか？」

タイチ「なんやその誘い方」

アサコ「だって、先輩今日元気無かったです

もん。パーっと美味しいもんでも食べに行きましょうよ」

タイチ「心配してくれるんはありがたいけどやな」

アサコ「もちろん先輩の奢りで」

タイチ「なんでやねん」

アサコ、前方に気付く

アサコ「先輩」

タイチ「ん？」

前方にメイコが立ってタイチを見ている

メイコ「よ！（片手を上げる）」

タイチ「：よ（片手を上げる）」

アサコ「：じゃあ先輩、お疲れ様です」

アサコ、メイコに会釈して去っていく

タイチ「役所、もうしまいやで」

メイコ「大丈夫。用事は済ましたから」

タイチ「そうか」

メイコ「：ちよっとさ、歩かない？」

○ 商店街・夜

シャッターを下ろしている店だらけの商店街。人もほとんどいない。

自転車を手押しで歩くタイチと横並びで歩くメイコ

メイコ「あれ？ここ山本くんとこの本屋さんだったとこだよね」

タイチ「2年前に爺さん亡くなって店閉めてしもた」

メイコ「そっか：あれ？」

シャッター街で唯一明かりがついているコンビニ

メイコ「ユミちゃんのおばちゃんのお店だったのに」

タイチ「3年前にコンビニに改装しはってな。

繁盛しとるわ」

メイコ「そうなんだ：あ！」

小走りになるメイコ

歩いて追うタイチ

看板に『ゲームセンター写楽』と書いて

ある店の前に立つ二人

マイコ「写楽はまだあるんだ！タイチたち、

よくここに集まってたよね」

タイチ「5年前に店閉めてる。そのまんまや」

マイコ「：そっか：いろいろ変わるね」

タイチ「：そうやな」

また歩き始める2人

○道路・夜

とぼとぼ歩く2人

タイチ「あれ見てみ（遠くを指さす）」

マイコ「あれって」

巨大な建造物

タイチ「ショッピングモールってやつや。便

利やで。なんでもありよる。中にさっ

きの商店街が10個くらい入っとる

ようなもんや」

メイコ「：なんだか寂しいな」

間

タイチ「なんか俺に用やったんちゃうんか？」

メイコ「（無視して）覚えてる？小学生の頃に

お年玉使って二人で町飛び出して、

神戸まで行けたけど帰れなくなっ

てさ。あのときスゴい怒られたよね」

タイチ「ああ、あったなあ」

メイコ「せっかく神戸行ったのに駅が広すぎ

て駅から出れずに保護されて（微笑）」

メイコを見つめるタイチ

タイチ「よう覚えてんな」

メイコ「いい思い出だからね。忘れたくない

ことって、忘れないんだよ」

間

タイチ「：結婚：」

メイコ「（無視して）あ、懐かしい！」

小走りで公園に入って行くメイコ

○公園・夜

ブランコをするメイコ

ブランコの周りの柵に腰掛けるタイチ

メイコ「学校帰りによくここ来てたよね。あ

そこの自販機でジュース買ってさ」

タイチ「うん」

メイコ「夏は炭酸。冬はあったかい飲み物

で。あ、そういえば嫌いだったブラ

ックコーヒー飲めるようになった

た？」

タイチ「：あの日のことやねんけどな」

メイコ「ブラックコーヒー、苦手だったじゃ

ん。苦くて飲めへーんって顔くしゃ

くしゃにしてさ」

タイチ「ごめんな」

長めの間

ブランコを漕ぐのをやめるメイコ

メイコの表情から笑顔が消える

タイチ「あの日、東京行かんくて、ごめん」

メイコ「：なんで今更謝るの？」

タイチ「それは」

メイコ「自分の罪悪感消し去りたいだけだよ

ね？私に謝って、全部忘れたいだけ

でしょ？勝手だよ、タイちゃん」

タイチ「ごめん」

メイコ「もう謝らないで！私にはなんの意味

もないから」

間

メイコ「ずっと待ってたんだよ、あの日。最

終の新幹線来るまでずっと、東京駅

のホームで、駅員さんに追い出され

るまでずっと」

タイチ「：」

メイコ「謝らなくていい。謝らなくていいか

らさ、なんであの日来なかったのか、

理由だけ教えてよ」

間

タイチ「：会いたなかつたんや、お前に」

マイコ「：」

タイチ「毎月会いに行つて、最初は一緒にいられて嬉しかった。やけど：」

マイコ「けど？」

タイチ「毎月会うたびに変わって行くお前が怖くなった。オシヤレになって、化粧が上手になつて行くお前を。訛りが無くなつていくお前を。会える楽しみより、今月はどのくらい変わった。たんかなくて考えるようになった。それであの日：」

マイコ「（じっと聞き入る）」

タイチ「開いてる新幹線のドアに入つていくことがどうしても出来なかった。足が：動かんかった」

俯くタイチ

目に涙を溜めながらタイチを見つめる

マイコ

マイコ「：連絡も取れなくなつたよね、あの日から」

タイチ「どんな顔して、どんな声で、どんな文章でお前とやりとりしたらええんか分からんかった」

メイコ「要するに逃げたんだよね、私から」

タイチ「：」

メイコ「：もういいよ。（涙を拭い）もういいです」

タイチ「メイコ：」

ブランコを降りて立ち上がるメイコ

メイコ「改めて。私、結婚します。幸せになります」

タイチ「：はい」

無理矢理笑顔を作るメイコ

メイコ「タイちゃん、小さい頃から今まで、私のそばにいてくれて、ありがとう。

さよなら！」

間

タイチ「：うん：さよなら」

○タイチの部屋

ベッドに寝転びながら天井を見つめる

タイチ

タイチ「さ、よ、な、ら」

身体を起こす。ふうとため息。

○茅野家・朝

家の前に運送屋のトラック。段ボールを

積み終わりに発進する。

トラックを見送るメイコ。

メイコ「さてと、追いかけますか」

○道路

キャリアーバッグを引きながら歩くメイ

コ

昨日いた公園の横を通る
遠くにショッピングモールが見える

○ 商店街

いくつかの店がシャッターを開こうと
している。
その様子を見ながら歩いていくメイコ

○ 駅前

駅前広場を通り抜け駅に着くメイコ
立ち止まり振り返る
町の景色を見渡し深く息を吸い吐き出
す

○ 駅のホーム

ホームで電車を待つメイコ
他に人はいない
やってくる電車
扉が開き乗車するメイコ
そのとき、猛ダッシュでホームに入って
くるタイチ
息も絶え絶えに電車の窓を覗きながら
走ってくる
席に座ろうとしたメイコ、タイチと目が
合う
メイコ「え？え？」
タイチ「（扉の方へ促すジェスチャー）」
扉に戻るメイコ
扉の前に行くタイチ
メイコ「タイちゃん、どうしたの？」
タイチ「はあはあ、これ、電車で、読んでく
れ」
メイコに乱雑に折り畳まれたルーズリ
ーフを渡すタイチ

メイコ「（微笑）ありがとう」

タイチ、膝に手をつけてゼエゼエと呼吸
している

その様子を見てクスクス笑うメイコ

メイコ「そんなに走らなくても間に合ったん
じゃない？」

タイチ「そんなもん結果論やろ。間に合わん
よりマシや。久しぶりに走った。あ
ーしんど」

メイコ「高3のマラソン大会の時『もう一生
絶対走らん』って叫んでたのにね」

タイチ「あ、ホンマや。走ってしもた」

メイコ「あはは：タイちゃんも変わったよ。
私のこと言えないよ」

タイチ「：そうかもしれないなあ」

発車のベルが鳴る

メイコ「あ、そうだ（鞆から花柄の冊子を取り
出す）これ、あげる。あとで見て」

冊子を受け取るタイチ

タイチ「おう」

メイコ「じゃあ：バイバイ」

タイチ「ああ：あのさ」

メイコ「？」

タイチ「あの、その：おし」

扉が閉まる

メイコの顔

タイチの顔

走り出す電車

見送るタイチの後ろ姿

○電車

座席に戻りルーズリーフを開いて読み

始めるメイコ

タイチ（声）「まずは、さっきはごめんなさい。

この9年、伝えなくちゃいけない

と思いつけていたことなのに、上

手く伝えることができませんで

した。謝るばかりの僕を許してく

ださい」

○ 駅のホーム

電車を見送るタイチの後ろ姿

タイチ（声）「本当のことを言うと、同窓会に
メイコが来ると聞いて、心底嬉
しかった。他愛もない昔の話を
できるんじゃないかって。でも
実際に顔を見ると、そんなこと
話せなかった。自分には話す権
利なんてないと思った。だって、
自分で手放したんだから、9年
前に」

電車が見えなくなると受け取った冊子
の中を見るタイチ。

タイチ「：フツ（軽く笑って電車の方角を見
る）」

○電車

ルーズリーフを読むマイコ

タイチ（声）「そんな俺が君に今更なぜこんな手紙を渡すかというところ、どうしても伝えたいことがあったからです。昨日、君が結婚すると聞いて、これは本当に素直に、嘘偽りない気持ちで、嬉しかった」

○回想・居酒屋

マイコが結婚発表をしたシーン。

タイチの真顔。

タイチ（声）「正直泣きそうになりました。でも絶対死んでも泣くもんかと耐えていました。それくらい嬉しかった」

○ 電車

クスリと笑うメイコ

タイチ（声）「だから本当は直接言いたかった。

あ の とき、あ そ こ で」

○ 駅のホーム

とぼとぼ歩くタイチの後ろ姿

タイチ（声）「でも俺には言う資格ないから。

だから、ちよつとズルいけど、

こうして文字で伝えようと思

ま す」

○ 電車

ルーズリーフの最後の1行に

『お幸せに』

目に涙を溜めるメイコ。

メイコ「・・・アホやなあ（微笑）」

○駅のホーム

とぼとぼ歩くタイチ

タイチ「見とったんか」

支柱の影にアサコ

アサコ「たまたまですよ」

タイチ「：なんかこうパッと美味しいもんで

も食い行くか！」

アサコ「いいですね、行きましょう！とこと

ん付き合いますよ」

タイチ「もちろんお前の奢りな」

アサコ「なんでですか！」

タイチ「傷心中の俺から金取んのか!? 外道な

後輩やで」

2
人、
仲
良
く
歩
い
て
行
く。
。

終